

TV サラウンドシステム

SRT-1000

取扱説明書



ご使用前に本書の「安全上のご注意」(23～25ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

保証書別添付

目次

内容物を確認する	2
本製品でできること	3
よくあるご質問	3
本機の各部名称	4
接続する	5
ゲーム機器などのアナログ接続	6
外部機器のデジタル接続	6
設置する	7
操作する	8
設置した位置に合わせてサラウンド効果を設定する (SRT ポジション)	10
好みのサラウンド効果を選ぶ	10
各チャンネルの音量バランスを調整する (CH レベル)	11
Bluetooth 機器の音楽を聴く	12
設定する	14
テレビのリモコンで本機を操作できるようにする (テレビリモコン学習機能)	14
外部サブウーファーを使用する	16
小さい音量でも聴きやすくする	16
自動スタンバイ機能を設定する	17
設定を初期化する	17
困ったときは	18
主な仕様	21
安全上のご注意	23

本書の記載について

- ・本書はリモコンによる操作を主として説明しています。
- ・本書で使用されている記号

ポイント

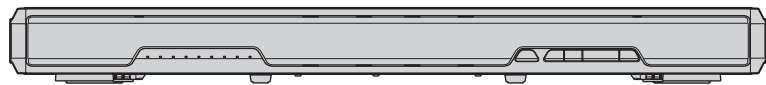
使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

ヒント

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

内容物を確認する

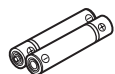
すべて揃っていることをお確かめください。



本機



リモコン



単4乾電池 (2本)



光ファイバーケーブル (1.5m)



取扱説明書
(本書)

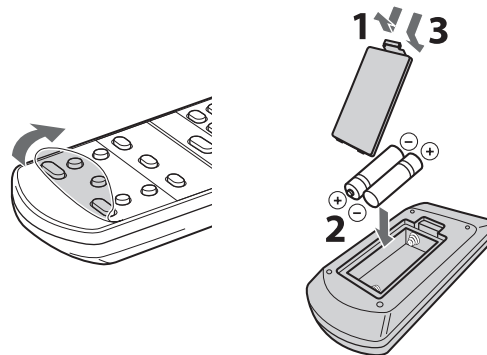


ステッカー
(無線に関するご注意)

◆ リモコンの使いかた

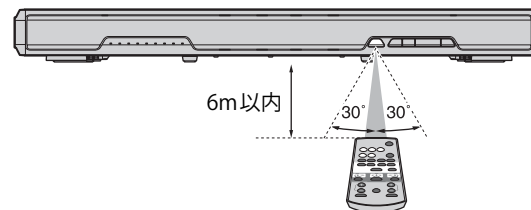
リモコンの準備

保護シートは、はがしてお使いください。



リモコンの操作範囲

本機のリモコン受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



本製品でできること

本製品は簡単な設置、接続で臨場感豊かなサラウンドをお楽しみいただける、ホームシアターシステムです。

● デジタルサウンドプロジェクター技術

複数の小口径スピーカーを個別に制御することでつくりだす音のビームを、壁で反射させることによって、包み込むようなリアルなサラウンドを再生することができます。(10 ページ)。

● サラウンドモード **CINEMA DSP**

映画、音楽、スポーツ、ゲーム、TV 番組の 5 つのサラウンドモードで、再生するソースに合わせて臨場感豊かなサラウンドを楽しめます (10 ページ)。

● クリアボイス

人の声 (セリフやアナウンスなど) を聞き取りやすくなります (9 ページ)。

● ユニボリューム **U/V/Volume**

入力や音源が切り替わる時の音量差を自動的に補正します (9 ページ)。

● Bluetooth® 接続 **Bluetooth®**

Bluetooth 対応機器の音声を手軽に再生することができます (12 ページ)。
音声は独自の音質特性改善技術「ミュージックエンハンサー」により、圧縮前の音源が持つ深みや瑞瑞しさをお楽しみいただけます。また、aptX コーデックに対応し、スマートフォンの音をより良い音でお楽しみいただけます。

● HOME THEATER CONTROLLER

専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」をお使いのスマートフォンにインストールすることで、さらに快適に操作できます。

● テレビリモコン学習機能

テレビのリモコンを使って、本機の電源や音量を操作できます (14 ページ)。

よくあるご質問

本機がよく使われる機能や、よくあるご質問について説明します。

Q1 設置可能なテレビのサイズは？

A1 質量が 40kg 以下、脚部の幅が 750mm 以下、奥行きが 350mm 以下、画面が 55 インチ以下の薄型テレビです。

Q2 テレビのリモコンで本機を操作することはできますか。テレビのリモコンと本機のリモコンを持ち替えるのは不便です。

A2 はい。「テレビリモコン学習機能」を使えば、お使いのテレビのリモコンで本機も操作することができます (14 ページ)。

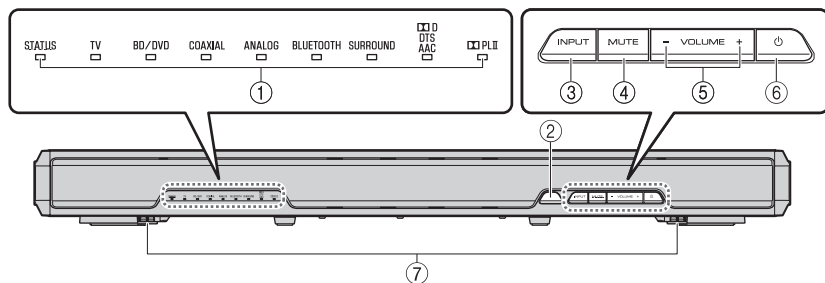
本機能は、赤外線方式のリモコンのみに対応しています。テレビのリモコン方式をお確かめの上、お使いください。

Q3 テレビの話し声を聞き取りやすくなりますか。

A3 はい。「クリアボイス機能」を使うと、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります (9 ページ)。

本機の各部名称

◆ 前面（フロントパネル）



① ランプ

本機の状態を表示します。操作から 5 秒経過すると自動的に暗くなります。ランプの主な機能については、「操作する」(8～9 ページ) をご覧ください。

② リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します (2 ページ)。

③ INPUT (インプット) ボタン

再生する機器を選びます (8 ページ)。

④ MUTE (ミュート) ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します (8 ページ)。

⑤ VOLUME (ボリューム) (+ / -) ボタン

音量を調節します (8 ページ)。

⑥ 電源 ボタン

本機の電源をオン/オフします (9 ページ)。

⑦ 内蔵サブウーファー

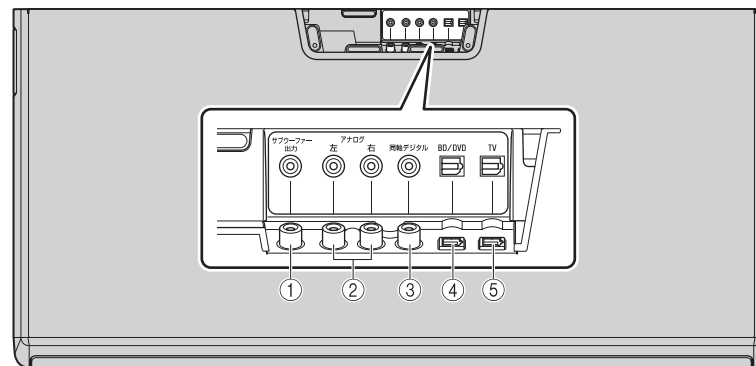
サブウーファーは本機の底部に内蔵されています。

ヒント

・自動スタンバイ機能を有効にすると、自動的に電源を切ることができます (17 ページ)。

◆ 背面（リアパネル）

上部から見た図



① サブウーファー出力端子

ピンケーブルを使って外部サブウーファーを接続します (16 ページ)。

② アナログ入力端子

アナログ音声用ステレオピンケーブルを使って外部機器を接続します (6 ページ)。

③ 同軸デジタル入力端子

同軸デジタルケーブルを使って外部機器を接続します (6 ページ)。

④ BD/DVD 入力端子

光ファイバーケーブルを使って、ブルーレイディスクレコーダー (以下、BD レコーダー) などの再生機器を接続します (5 ページ)。

⑤ TV 入力端子

光ファイバーケーブルを使ってテレビを接続します (5 ページ)。

接続する

本機とテレビ（および、その他の機器）を接続します。

ご注意

- ・ 本機の電源ケーブルを、コンセントから外した状態で接続を始めてください。
- ・ ケーブルプラグを端子に差し込む際に、強い衝撃を与えないようにしてください。破損の原因になります。

1 本機上面の端子カバーを外す。

2 光ファイバーケーブル（付属）でテレビと本機を接続する。

光ファイバーケーブルのキャップを取り、向きを確認して差し込みます。



3 本機の電源ケーブルをコンセントに接続する。

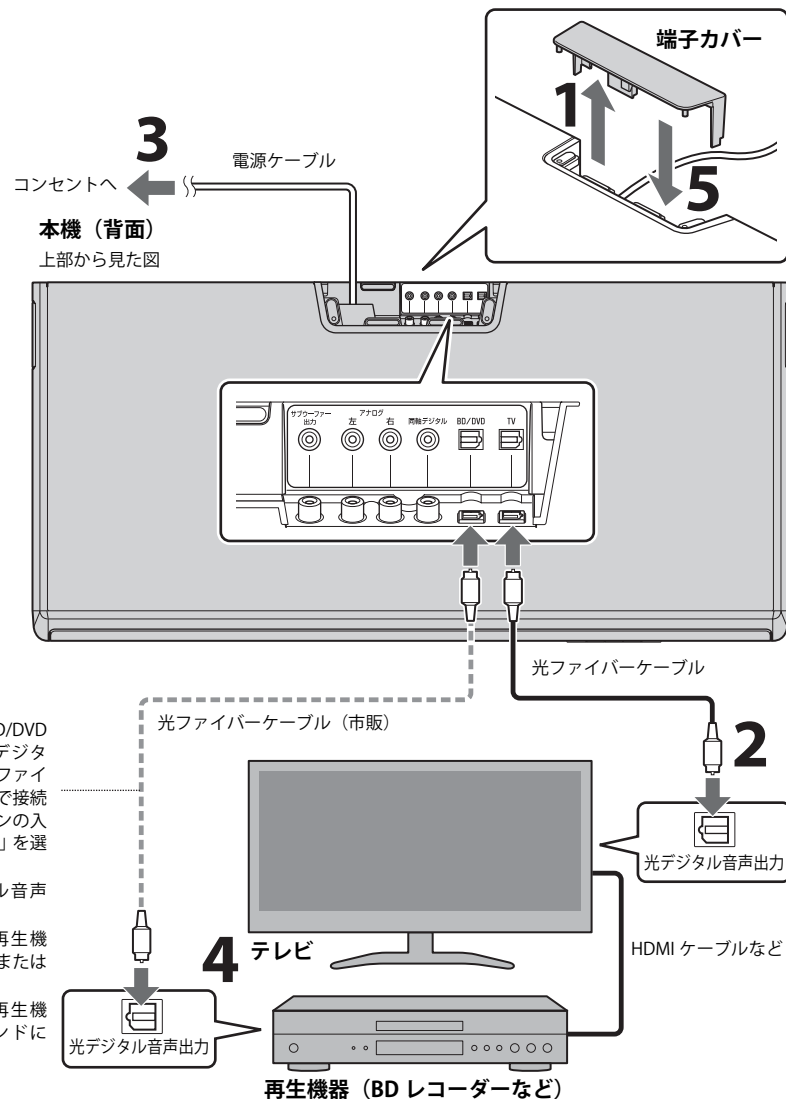
4 テレビを次のように設定する。

- ・ 音量を最小にする。
- ・ テレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にする。（設定可能な場合）

5 端子カバーを閉める。

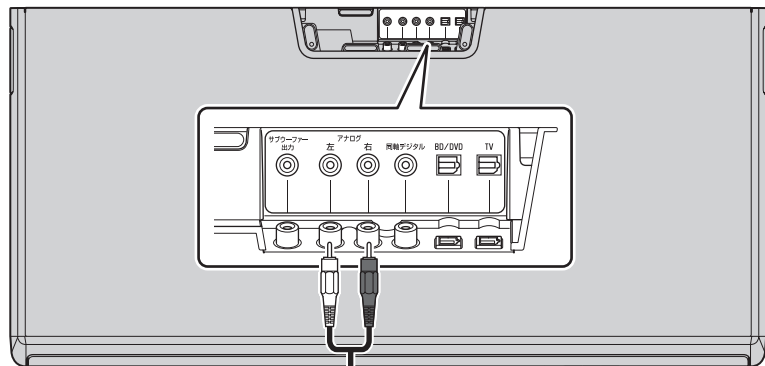
ヒント

- ・ 手順 4 でテレビに内蔵スピーカーの音量設定がない場合は、ヘッドホン/イヤホン端子にヘッドフォンや変換プラグなどを接続することで、内蔵スピーカーの音声出力をオフできる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・ TV、BD/DVD、同軸デジタル端子は以下の音声信号に対応しています。
 - PCM (2ch)
 - Dolby Digital (5.1ch まで)
 - DTS Digital Surround (5.1ch まで)
 - MPEG2 AAC (5.1ch まで)



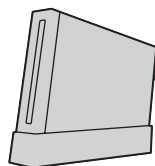
ゲーム機器などのアナログ接続

光デジタル音声出力端子がないテレビや、ゲーム機器などの外部機器を、本機のアナログ入力端子に接続します。



本機 (背面)
上部から見た図

ステレオピンケーブルなど (市販)



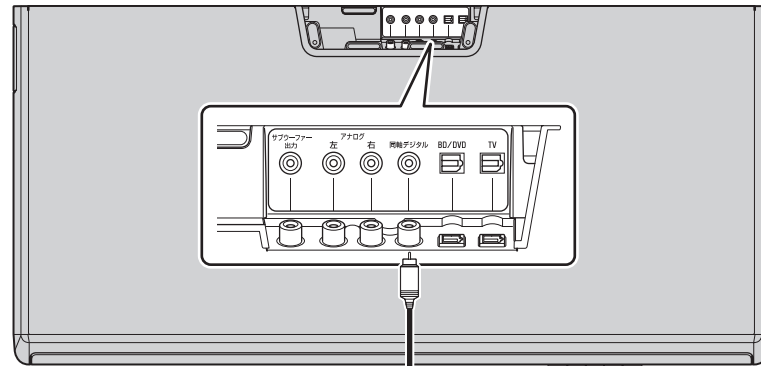
ゲーム機器など

ポイント

- ・ 左音声 (L) と右音声 (R) をよく確認して接続してください。
- ・ リモコンの入力ボタンは、「アナログ」を選んでください。

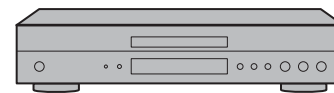
外部機器のデジタル接続

DVD プレーヤーなど、同軸デジタル音声出力がある機器を、本機と同軸デジタル端子に接続します。



本機 (背面)
上部から見た図

同軸デジタルケーブル (市販)



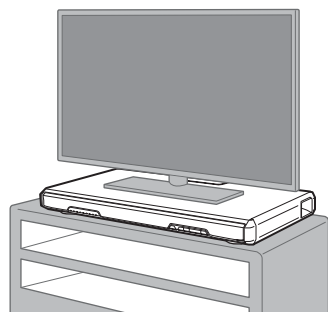
同軸デジタル
音声出力
(オレンジ)

ポイント

- ・ リモコンの入力ボタンは、「同軸デジタル」を選んでください。

設置する

本機をテレビ台の上などに設置し、その上にテレビを設置します。

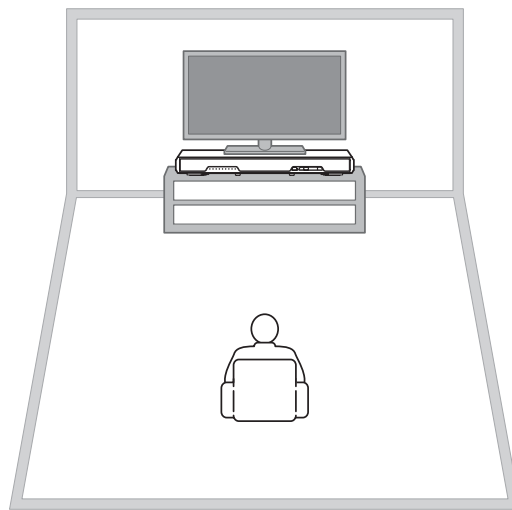


ご注意

- 本機の上に設置可能なテレビは、質量が 40Kg 以下、脚部の幅が 750mm 以下、奥行きが 350mm 以下、画面が 55 インチ以下の薄型テレビです。ブラウン管テレビは設置できません。
- テレビの脚部が本機からはみ出さないように設置してください。テレビの脚部が大きすぎる場合は、本機をオープンラックなどに設置してください。その場合は、本機の周りに十分なスペースが確保できる通気性のよい棚に設置し、本機の内部に熱がこもらないようにしてください。
- 本機がテレビ台からはみ出さないように設置してください。
- 本機の上にテレビ以外のものを置かないでください。BD レコーダーなどを置くと、振動により機器が故障したり、テレビの設置が不安定になります。また、硬いものを置くと、本機にすり傷などがつく恐れがあります。
- テレビの転倒防止ワイヤーや金具は本機には絶対に取り付けしないでください。地震などにより、テレビとともに本機がラックから落下する恐れがあります。お手持ちのテレビの取扱説明書をよく読み、指示に従って壁面や丈夫なものにテレビを固定してください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなどを本機の上や近くに設置しないでください。
- 本機と外部機器（テレビなど）の接続を考慮のうえ設置場所を決めてください。

◆ 十分なサウンド効果を得るには

十分なサウンド効果を得るために、以下のポイントに注意してください。



- 本機から 2 m 以上離れた位置で視聴してください。
- 視聴する位置が本機の正面になるように設置してください。
- 家具などでビームが遮られる場合は、本機、または障害物となる家具の位置を調整してください。

◆ 設置した位置に合わせてサウンドを最適化する

本機は壁の反射を利用してサウンド効果を創り出します。本機を設置した位置に応じて SRT ポジション設定をすることで、最適なサウンドを実現できます。本機の電源を入れた後で、本機の設置位置に合った SRT ポジションキーを 3 秒間押してください。

詳しくは、「設置した位置に合わせてサウンド効果を設定する (SRT ポジション)」(10 ページ) をご覧ください。

ご注意

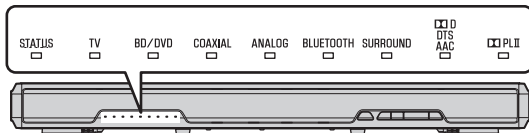
本機の特性上、以下のような環境では十分なサウンド効果を得られない場合があります。

- 家具などでビームが遮られる。
- 部屋の大きさが幅 3m~7m、奥行き 3m~7m、高さ 2m ~ 3.5m に当てはまらない。
- 視聴位置が本機に近すぎる。
- 本機の位置が左右の壁面に近すぎる。
- 部屋の角に設置している。
- ビームの経路上に反射に適した壁面がない。

操作する

◆ ランプの表示

本機前面のランプが点滅 / 点灯することで、操作や設定状況を示します。



本書では、ランプ9個が並んだイラストを使って説明しています。

- : 消灯
- : 点灯
- ☼ : 点滅

(例：STATUSランプが点滅し、TVランプが点灯する場合)



1 入力ボタン

再生する音声ソースを選びます。

選んだ音声ソースのランプが点灯します。
(例：TV選択時)



- TV ボタン** テレビの音声 (TV ランプ点灯)
- BD/DVD ボタン** BD/DVD端子に接続した機器の音声 (BD/DVD ランプ点灯)
- 同軸デジタルボタン** 同軸デジタル端子に接続した機器の音声 (COAXIAL ランプ点灯)
- アナログボタン** アナログ端子に接続した機器の音声 (ANALOG ランプ点灯)
- BLUETOOTH ボタン** Bluetooth 機器の音声 (BLUETOOTH ランプ点灯)

ヒント

- ・ テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は、テレビ側の入力切替で再生機器を選んでください。
- ・ Bluetooth の使用については、「Bluetooth 機器の音楽を聴く」(12 ページ) をご覧ください。

2 サブウーファーボタン (+ / -)

サブウーファアの音量を調節します。



音量ボタン (+ / -)

本機の音量を調節します。



消音ボタン

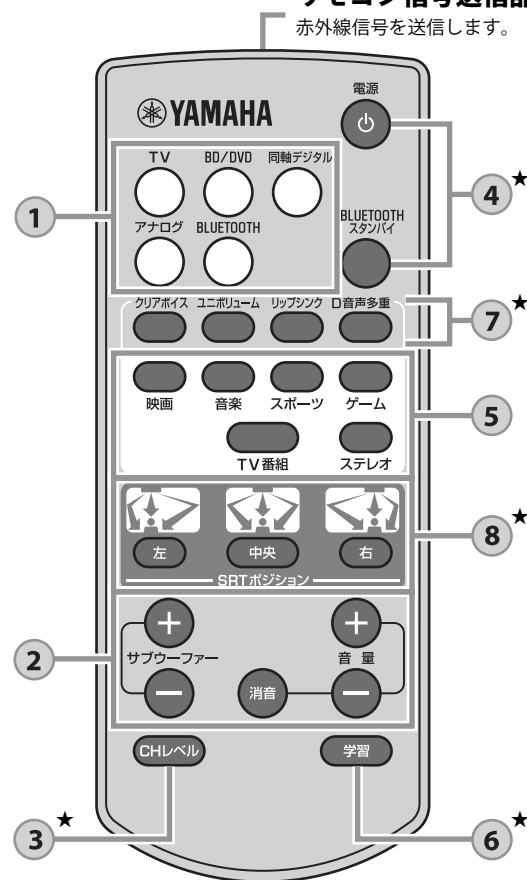
消音します。もう一度押すと消音を解除します。



★：3 秒以上押しで設定するボタン
BLUETOOTH スタンバイ、リップシンク、SRT ポジション (左、中央、右)、CH レベル、学習

リモコン信号送信部

赤外線信号を送信します。



3 CH レベルボタン★

各チャンネル (音声出力) のレベルをテスト音を聴きながら調整できます (11 ページ)。

4

⏻ (電源) ボタン

本機の電源をオン/オフします。

STATUS ■ 緑 (電源オン)

STATUS ■ 赤 (Bluetooth スタンバイ状態) (13 ページ)

STATUS □ 消灯 (電源オフ)

BLUETOOTH スタンバイボタン★

Bluetooth スタンバイモードの有効/無効を切り換えます (13 ページ)。


5

サウンドモードボタン/ステレオボタン

5 種類のサウンド再生 (サウンドモード) と、ステレオ再生 (2ch ステレオ) を切り換えます。サウンド再生を選ぶと、ヤマハ音場創生技術、「シネマ DSP」により、臨場感のある音響効果を楽しむことができます (10 ページ)。

映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム / TV 番組ボタン..... SURROUND ■ 点灯 (サウンド再生)

ステレオボタン..... SURROUND □ 消灯 (ステレオ再生)

ヒント・ドルビープロロジックIIを使用して2chステレオ信号をサウンドで再生しているときは、 PLII ランプが点灯します。 点灯 (ドルビープロロジック II)

6

学習ボタン★

テレビリモコン学習機能を設定します (14 ページ)。

クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効/無効を切り換えます。クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。



3 回点滅 (有効に設定時)、1 回点滅 (無効に設定時)

ユニボリュームボタン

ユニボリューム機能の有効/無効を切り換えます。ユニボリュームを使用すると、入力や音源が切り替わる時の音量差を自動的に補正します。



3 回点滅 (有効に設定時)、1 回点滅 (無効に設定時)

リップシンクボタン★

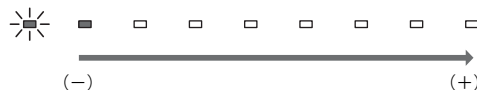
映像が音声よりも遅れている場合に、映像を見ながら音 (セリフなど) が口の動きに一致するように調整します。以下の手順で調整してください。

1 リップシンクボタンを 3 秒以上押す。

リップシンク調整モードになり、左端のランプが点滅します。

**2 サブウーファーボタン (+ / -) で音声の出力タイミングを調整する。**

サブウーファー (+) ボタンを押すと音声が遅くなります。

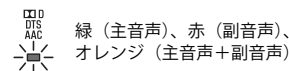
**3 調整が終わったら、リップシンクボタンを押す。****ヒント**

・最後の操作から 20 秒経過すると、自動的に調整モードが終了します。

7

D 音声多重ボタン

地上デジタル / BS デジタル放送 (モノラル多重音声) の主音声 / 副音声を切り換えます。ボタン操作時に点滅するランプの色で、選択中の音声を確認できます。



緑 (主音声)、赤 (副音声)、オレンジ (主音声+副音声)


8

SRT ポジションボタン★

最適なサウンド音で再生するため、設置した位置を選択します (10 ページ)。

◆ デコーダー表示

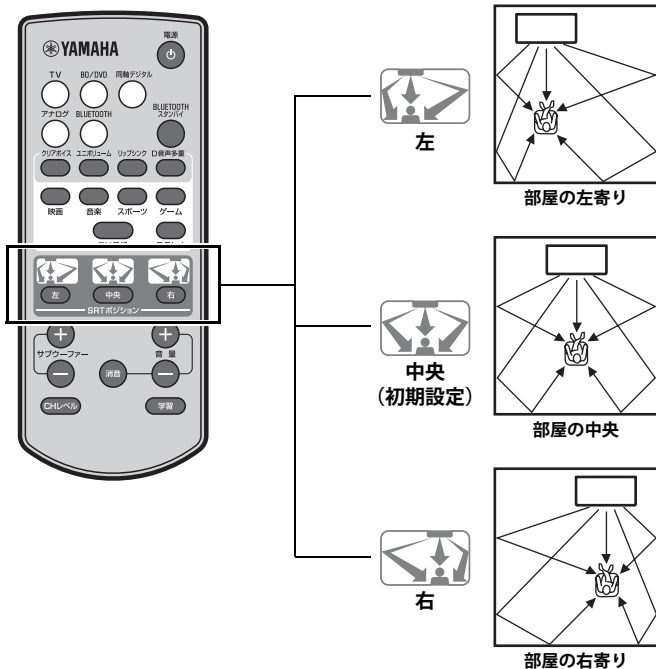
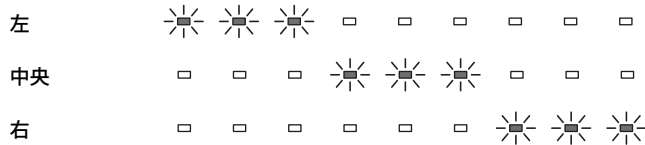
本機は以下の音声信号に対応しています。本機に音声が入力されているときは、ランプの色で信号の種類を確認できます。

 緑 (ドルビーデジタル)、赤 (DTS デジタルサラウンド)、オレンジ (MPEG2 AAC) 消灯 (PCM)

設置した位置に合わせてサラウンド効果を設定する (SRT ポジション)

本機は以下のように音のビームを壁に反射させることによって、サラウンド効果を創り出します。十分なサラウンド効果を得るために、電源をオンにしたあとで本機を設置する位置に応じて SRT ポジションを設定してください。

- 1** 本機を設置した位置に合ったSRT ポジションボタンを3秒以上押し続ける。
設定した位置に応じて本機前面のランプが点滅します。



お好みのサラウンド効果を選ぶ

リモコンのサラウンドモードボタンを選ぶと、映画やコンサート、スポーツ中継などジャンルに合わせた最適な音声をヤマハの音場創生技術、「シネマ DSP」により、臨場感のあるサラウンド音響で楽しめます。サラウンドモードボタンは再生するソースにより、映画、音楽、スポーツ、ゲーム、TV 番組の 5 つのサラウンドモードから選ぶことができます。

- 1 ソースを再生する。
- 2 サラウンドモードボタン (映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム / TV 番組のいずれか) を押す。

本機前面の SURROUND ランプが点灯します。

(例：映画 選択時)



◆ サラウンドモードについて

各サラウンドモードの特長は以下のとおりです。
再生ソースやご自分の好みに合ったサラウンドモードを選んでください。

音場プログラム	特長
映画	映画の世界の広がりや臨場感を演出する音場です。ドルビーサラウンドやDTSサラウンドの魅力や損なうことなく、さらに豊かな音場で映画の世界を楽しめます。
音楽	ライブハウスのステージの正面にいるような臨場感をつくり出します。
スポーツ	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組をライブ感豊かに楽しめます。
ゲーム	パソコンのゲームやテレビゲームの3次元的なサラウンド効果を楽しめます。
TV 番組	TV 番組の視聴に最適なサラウンド音声です。

ヒント

- ・ステレオ (2 チャンネル) 信号の場合も、ドルビープロロジック II により、サラウンドで再生します。

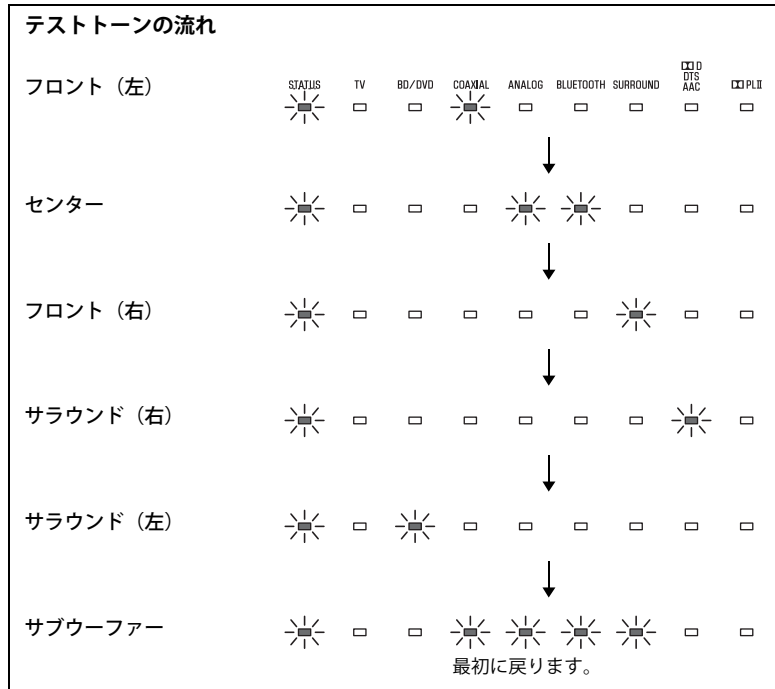
各チャンネルの音量バランスを調整する(CHレベル)

本機は、6つの音声チャンネルでサラウンド効果を実現しています。チャンネルごとに出力されるテストトーンを視聴位置で聴きながら、チャンネル間の音量バランスを調整できます（ステレオ再生の場合は調整できません）。

1 リモコンのCHレベルボタンを3秒以上押す。



テストトーン出力中は、STATUSランプが緑色に点滅します。テストトーンは図のように巡回し、それぞれ約2秒間ずつ聴こえます。ランプの点滅状態により、どのチャンネルからテストトーンが出ているかを確認できます。



2 調整したいチャンネルからテストトーンが出ている間に、サブウーファー(+/-)ボタンを押して、他のスピーカーの音量と同じになるように調節する。



調節中は、テストトーンの巡回が一時停止します。+ボタン、または-ボタンを離してしばらくすると、再び巡回します。チャンネルの音量は表示ランプで確認できます。

3 調整が終わったら、もう一度CHレベルボタンを押す。

テストトーンが止まります。

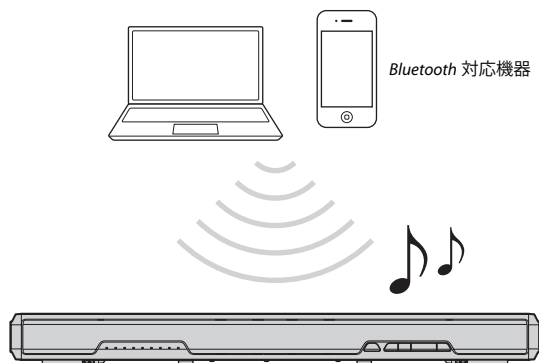
ヒント

- テストトーンの出力中に音量を調節すると、システム全体の音量を増減できます。
- SRTポジションを切り換えると（10ページ）、CHレベルの設定はポジションに応じた設定値となります。

Bluetooth機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth に対応した機器の音声を、ワイヤレスで再生することができます。

ご使用の際には、Bluetooth 対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



Bluetooth 対応機器を本機で楽しむには、以下の流れで操作してください。

はじめての操作

2 回目以降の操作

本機に Bluetooth 機器を登録する
(ペアリング)

Bluetooth 対応機器を接続して再生する

本機に Bluetooth 機器を登録する (ペアリング)

はじめて接続するときは、Bluetooth 対応機器を本機に登録します。これを「ペアリング」といいます。

一度ペアリングが完了した機器は、再びペアリングをする必要はありません。

1 リモコンの BLUETOOTH ボタンを押し、入力を Bluetooth に切り換える。

本機の BLUETOOTH ランプが緑色に点灯します。

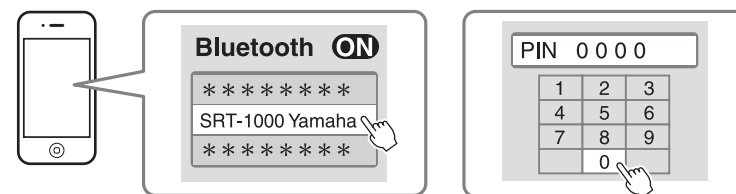



2 対応機器側の Bluetooth 機能をオンにして、ペアリング操作を行う。

対応機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 対応機器側で Bluetooth リストが表示されたら、「SRT-1000 Yamaha」を選ぶ。

パスキー (PIN) の入力が必要な対応機器は、数字の「0 0 0 0」を入力します。



対応機器側に 、または接続完了メッセージが表示されたら、ペアリングは完了です。

ポイント

- ペアリングは、本機と対応機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- 本機は最大 8 台の対応機器とペアリングできます。9 台目の対応機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- ペアリング情報が削除された場合には、再度ペアリングを行う必要があります。
- 別の Bluetooth 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから (13 ページ)、ペアリングを行ってください。
- ペアリングができない場合は、「困ったときは」の「Bluetooth」(19 ページ) をご覧ください。

本機で Bluetooth 機器を再生する

1 電源オンの状態でリモコンの BLUETOOTH ボタンを押し、入力を Bluetooth に切り換える。

本機の BLUETOOTH ランプが緑色に点灯します。

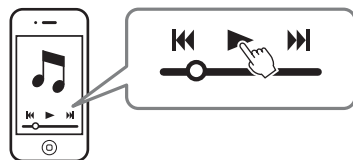


2 対応機器側の Bluetooth 機能をオンにする。

本機に Bluetooth が正常に接続されると、本機の BLUETOOTH ランプが 3 回点滅します。



3 対応機器側で曲を再生する。



ポイント

- Bluetooth 接続は、本機から 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、対応機器側の Bluetooth 接続リストから「SRT-1000 Yamaha」を再度選んでください。お使いの機器によっては、音声の出力先として本機を設定する必要があります。
- 必要に応じて、対応機器側の音量を調節してください。
- 別の Bluetooth 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから接続してください。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断されます。

電源がオンの状態で Bluetooth 接続が切断されると本機の BLUETOOTH ランプが 1 回点滅します。

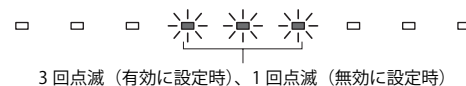
- 対応機器側で Bluetooth 機能をオフにする。
- リモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
- 本機の電源をオフにする。

Bluetooth スタンバイモードを利用する

Bluetooth スタンバイモードを使うと、対応機器側の Bluetooth 操作に連動して自動的に本機の電源をオン / オフすることができます。

1 電源オンの状態でリモコンの BLUETOOTH スタンバイボタンを 3 秒以上押す。

Bluetooth スタンバイボタンを 3 秒押すごとに、有効 / 無効に設定が切り替わります。



Bluetooth スタンバイモードを有効に設定すると、本機の電源をオフにしたときに、STATUS ランプが赤色に点灯します (Bluetooth スタンバイ状態)。



Bluetooth スタンバイモードが有効のとき、対応機器側からの電源連動は以下のように機能します。

電源オン連動 (本機が電源オフの状態)

対応機器側で本機に Bluetooth 接続すると、本機の電源もオンになり、すぐに Bluetooth 機器の音声を再生できる状態になります。

電源オフ連動 (本機が電源オンの状態)

対応機器側で本機の Bluetooth 接続を切断すると、本機の電源もオフになります。(入力が BLUETOOTH のときのみ)

アプリで便利に使いこなす

専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにインストールすると、端末機器から本機をより便利に操作することができます。

(設定項目：基本操作、サラウンドモード、音質設定など)

「HOME THEATER CONTROLLER」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

設定する

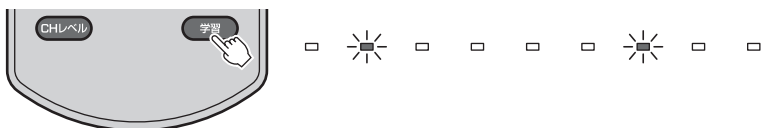
テレビのリモコンで本機を操作できるようにする (テレビリモコン学習機能)

本機にテレビのリモコン信号を学習させると、テレビのリモコンだけを使って本機とテレビの電源を同時に操作したり、本機の音量調節ができるようになります。

- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。
- この機能は、テレビのリモコンが電波を使用している場合は利用できません。
- もし、操作に応じてテレビの音量も変わる場合は、テレビ本体で音量を最小にするか、テレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にしてください。

- 1 テレビの電源をオフにする。
- 2 本機の電源をオフにする。
- 3 本機のリモコンの学習ボタンを3秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、本機前面のランプが以下のように点滅します。



ポイント

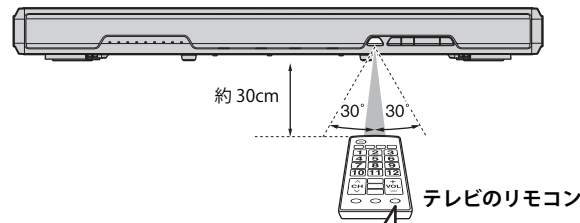
- これ以降の手順4～7は、「テレビのリモコン」と「本機前面のボタン」のみで設定します（本機のリモコンは使用しません）。
- 既に学習済みの機能がある場合は、以下のランプも点灯します。
消音：BD/DVD
音量（-）：COAXIAL
音量（+）：ANALOG
電源：BLUETOOTH

4 テレビのリモコンの消音（MUTE）信号を学習させる。

4-1 本機前面のMUTEボタンを押す。



4-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの消音（MUTE）ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。



結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※4-1からやり直してください。	ブザー	

5 テレビのリモコンの音量（-）信号を学習させる。

5-1 本機前面のVOLUME（-）ボタンを押す。



5-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの音量（-）ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※5-1からやり直してください。	ブザー	

6 テレビのリモコンの音量 (+) 信号を学習させる。

6-1 本機前面の VOLUME (+) ボタンを押す。

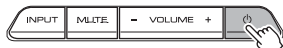


6-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの音量 (+) ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※6-1からやり直してください。	ブザー	

7 テレビのリモコンの電源信号を学習させる。

7-1 本機前面の (電源) ボタンを押す。



7-2 テレビのリモコンを本機のリモコン受光部に向け、リモコンの電源ボタンを1秒以上押し続けて離す操作を2～3回繰り返す。

結果	音のタイプ	ランプ
学習成功	ポーン	
学習失敗 ※7-1からやり直してください。	ブザー	

8 学習が終わったら、本機のリモコンの学習ボタンを押す。

これで設定完了です。テレビのリモコンの消音ボタンや音量ボタン、電源ボタンで本機を操作できます。

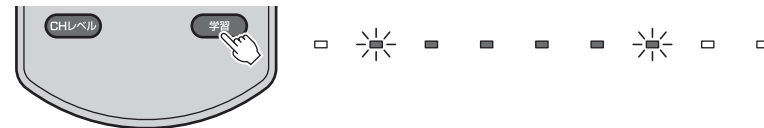
ヒント

- 無操作のまま5分経過すると、自動的に学習モードが終了します。
- テレビの音量を最小に設定してお使いください。テレビのリモコンで本機の音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」(5ページ)の手順4に従ってテレビを設定してください。
- 本機のリモコンの (電源) ボタンを押して、設定を完了することもできます。

学習した機能をすべて消去する

1 電源オフの状態では本機のリモコンの学習ボタンを3秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、本機前面のランプが以下のように点滅します。



2 本機前面の INPUT ボタンを3秒以上押す。

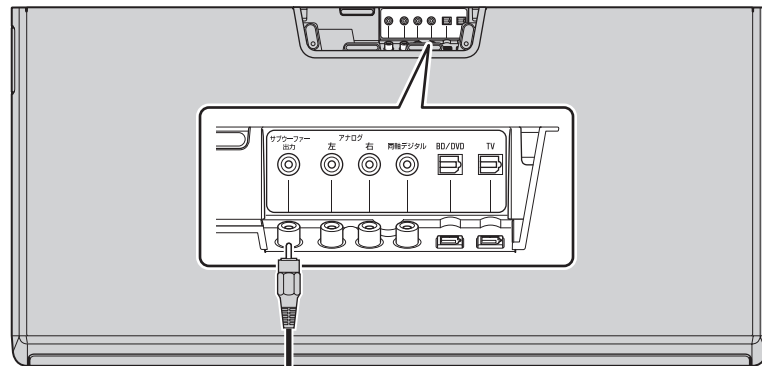


消去が完了すると、音が3回鳴ります。

3 本機のリモコンの学習ボタンを押す。

外部サブウーファーを使用する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、さらに低音を強化したい場合など、外部サブウーファーを使用することもできます。サブウーファーを本機のサブウーファー出力端子に接続します。



本機（背面）
上部から見た図

サブウーファー用
ピンケーブル（市販）

モノラル入力

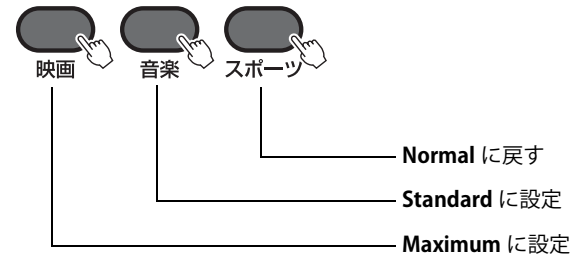
ポイント

- 外部サブウーファーは、アンプが内蔵されているタイプのものをご使用ください。

小さい音量でも聴きやすくする

ダイナミックレンジの圧縮モードを切り換えることで小さな音量でも聴きやすくします。




- 電源をオフにする。
- 設定したいモードの各ボタンを5秒以上押す。



電源がオンになり、設定が切り換わります。

設定は以下の3種類です。

本機の電源をオンにしたときに、以下のランプ表示で設定状態を確認できます。

設定	説明	ランプ（電源オン直後）
Normal（自動）	音量に応じて、最適なダイナミックレンジに自動設定します。	 緑点灯
Standard（標準）	一般的な部屋での視聴に合ったダイナミックレンジに圧縮します。	 オレンジ点灯
Maximum（圧縮なし）	ダイナミックレンジ圧縮をしません。	 赤点灯

ポイント

- 初期設定は Normal です。

自動スタンバイ機能を設定する

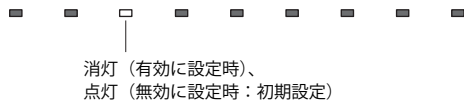
自動スタンバイ機能を有効にすると、本機を使用していない時やテレビを見ながら眠ってしまったときの電源の切り忘れを防止できます。

ポイント

- ・自動スタンバイ機能を有効に設定した場合、以下のときに自動的に電源を切ります。
 - 操作がない状態で 8 時間経過
 - BLUETOOTH が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過

1 電源オフの状態、本機のリモコンの消音ボタンを 5 秒以上押して、自動スタンバイ機能を有効 / 無効にする。


本機の電源をオンにしたときに、BD/DVD ランプで自動スタンバイ機能の設定状態を確認できます。



消灯 (有効に設定時)、
点灯 (無効に設定時：初期設定)

設定を初期化する

本機の設定をすべて初期化します。

- 1 本機の電源をオフにする。
- 2 本機前面の  (電源) ボタンを 3 秒以上押す。



点滅 (初期化完了)

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

最初に以下の点を確認してください。

- ① 本機、テレビ、再生機器（BDレコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、テレビ、再生機器（BDレコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

◆ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	自動スタンバイ機能により電源が切れた。 自動スタンバイ機能が有効に設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源が切れます。 - 操作がない状態で8時間経過 - BLUETOOTHが入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で20分経過	もう一度電源を入れてください。自動的に電源が切れないようにする場合は、自動スタンバイ機能を無効に設定してください（17ページ）。
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機前面の⏻（電源）ボタンを10秒以上押し再起動してください。（それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
	保護回路が作動した。（本機前面のSTATUSランプが点滅します。）	接続が正しいことを確認した後で、もう一度電源を入れてください。たびたび電源が突然切れる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。
電源が入らない	Bluetoothスタンバイが有効なとき、Bluetooth機器の接続を切った。	Bluetoothスタンバイを無効にしてください（13ページ）。
	保護回路が3回続けて作動した。（この状態で電源を入れようとすると、本機前面のSTATUSランプが点滅します。）	製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。

本機が正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機前面の⏻（電源）ボタンを10秒以上押し再起動してください。（それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
操作をしていないのに本機が動作する	近くで、別のBluetooth対応機器が使用されている。	Bluetooth接続をいったん切断し、接続し直してください（13ページ）。

◆ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	再生したい入力選ばれていない。	正しい入力を選んでください（8ページ）。
	消音されている。	消音を解除してください（8ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（8ページ）。
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を上げてください（8ページ）。
	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	—
電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。（突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。）	必要に応じて、音量を上げてください（8ページ）。
サラウンド感が得られない	ステレオ再生が選ばれている。	サラウンド再生に切り換えてください（10ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（8ページ）。
	サラウンド（左）、サラウンド（右）の音量が小さい。	サラウンド（左）、サラウンド（右）の音量を上げてください（11ページ）。
	テレビ、または再生機器が常に2チャンネル（PCMなど）で出力するように設定されている。	テレビ、または再生機器の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	設置環境に適したSRTポジションが選ばれていない。	リモコンのSRTポジションボタンで最適なポジションを選んでください。
	部屋の環境上、ビームが壁面に適切に反射しない。	別売のサウンドリフレクションボードの設置をおすすめします（20ページ）。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	該当機器を本機から離してください。

◆ リモコン操作

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください (8 ページ)。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください (8 ページ)。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
テレビリモコンを学習させることができない	学習させたいボタンを押している長さが短すぎる。	1 秒以上押し続けて 1 秒以上離す操作を 2 ～ 3 回繰り返してください (14 ページ)。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。(赤外線リモコンでも対応していない場合があります。)	この場合は学習機能を利用できません。付属のリモコンで操作してください。
	テレビのリモコンを適切な位置で操作していない。	適切な位置で操作してください (14 ページ)。
	テレビのリモコンの乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。
	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビの電源を切った状態で、テレビのリモコン信号を本機に学習させてください (14 ページ)。
テレビリモコンで本機の音量を上げると、テレビから音声が出力される (学習機能使用時)	テレビ側の設定で、テレビ (内蔵スピーカー) の音声出力を無効にしてください。テレビに該当する設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン/イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。	テレビ側の設定で、テレビ (内蔵スピーカー) の音声出力を無効にしてください。テレビに該当する設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン/イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。
本機とテレビの電源が逆になる (例: 本機の電源を入れるとテレビの電源が切れる) (学習機能使用時)	テレビのリモコンを本機に学習させた際に、テレビの電源が入っていた。	テレビ本体の電源ボタンと本機前面の (電源) ボタンで両方の電源を入れてから、テレビのリモコンの電源ボタンでテレビと本機の電源を切ってください。

◆ Bluetooth

症状	原因	対策
本機と対応機器がペアリングできない。	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「0000」の機器をご使用ください。
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
Bluetooth 接続ができない。	別の Bluetooth 対応機器が既に接続されている。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。
	別の Bluetooth 対応機器が既に接続されている。	本機は複数の Bluetooth 対応機器とは接続できません。現在接続中の対応機器をいったん切断してから、接続し直してください。
	9 台以上の対応機器とペアリングしたために、ペアリング情報が削除された。	再度ペアリングしてください。本機は最大 8 台の対応機器とペアリングが可能ですが、9 台目を登録すると、最も古いペアリング情報は削除されます。
音が出ない、または音が途切れる。	対応機器との Bluetooth が切断された。	接続し直してください (13 ページ)。
	本機の入力が Bluetooth 以外になっている。	入力を Bluetooth にしてください。
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (電子レンジ、無線 LAN 機器など) がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	対応機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。	対応機器の音声出力設定や、接続の設定を変更してください。
	対応機器側での再生操作をしていない。	対応機器側で再生してください。
	対応機器の音量が最小になっている。	対応機器の音量を上げてください。
使用中の機能が aptX に対応していない。	対応機器の設定を変更し、サウンドバーと接続し直してください。	

サラウンド感が得られないときは

本機は音声をビーム化し、壁面に反射させることでサラウンド音響を実現しています。設置した部屋の状態によってはビームが視聴位置の方向に反射されず、音量のバランスや音の方向が不自然に聞こえることがあります。

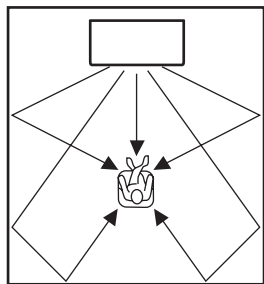


図1：理想的な反射状態

音声为正しく反射され、バランスの取れたサラウンド効果が得られます。

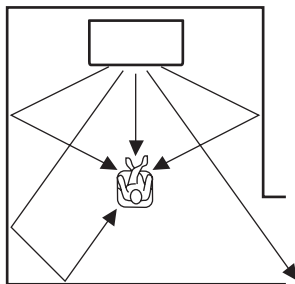


図2：壁がなく、サラウンド右チャンネルの音声が反射されない状態

サラウンド右チャンネルの音が小さくなったり、理想的な位置より前方から音が聞こえたりします。

上記の図2のようにビームが視聴位置の方向に反射されない場合、オプション品の「サウンドリフレクションボード (YRB-100)」を設置することで、壁がない場所でもサラウンド感を向上させることができます。

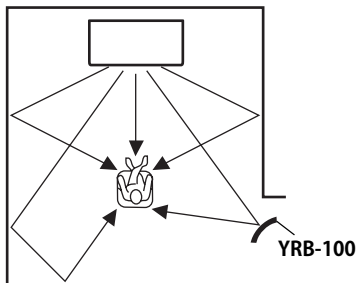


図3：サウンドリフレクションボードを設置した状態

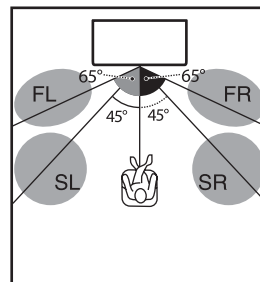
サラウンド右チャンネルのビームが壁面に正しく反射されて理想的な反射状態となります。

◆ YRB-100 設置のポイント

本機は「SRT ポジション」(9 ページ) の設定により、下図のようにビームを出力します。

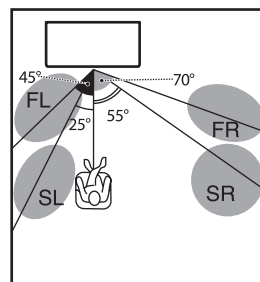
YRB-100 を設置するときは、下図を目安に、できるだけビームの出力方向に近い位置に設置してください。

図の●の位置が理想的です。

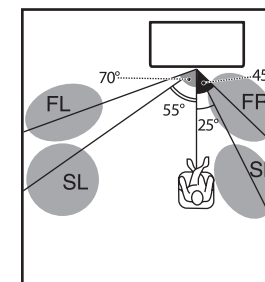


SRT ポジション：中央

FL: フロント左
FR: フロント右
SL: サラウンド左
SR: サラウンド右



SRT ポジション：左



SRT ポジション：右

- 設置後は、YRB-100 取扱説明書「設置と調整」の手順に従って、YRB-100 の高さと左右の方向を調整してください。その際、CH レベルを 3 秒以上押ししてテストトーンを出力すると調整しやすくなります (11 ページ)。
- YRB-100 は視聴位置に近い場所に設置すると、よりはっきりした定位感が得られます。

ご注意

本機はビーム角度の自動調整機能を搭載していません。そのため、YRB-100 取扱説明書に記載された「ビーム調整をする (1 回目)」、「ビーム調整をする (2 回目)」の手順は省いてください。

主な仕様

項目		TV サラウンドシステム (SRT-1000)
アンブ部	実用最大出力	アレイスピーカー 2Wx8
		ウーファー 30Wx2
		サブウーファー 60W
アレイスピーカー部	型式	密閉型
	スピーカユニット	フルレンジ 2.8cm コーン防磁型 x8
	再生周波数帯域	500Hz ~ 22kHz
	インピーダンス	4Ω
ウーファー部	型式	密閉型
	スピーカユニット	フルレンジ 4x10cm コーン非防磁型 x2
	再生周波数帯域	150Hz ~ 22kHz
	インピーダンス	6Ω
サブウーファー部	型式	バスレフ
	スピーカユニット	8.5cm コーン非防磁型 x2
	再生周波数帯域	45Hz ~ 150Hz
インピーダンス	インピーダンス	6Ω
	対応音声信号	PCM (2ch) Dolby Digital DTS Digital Surround AAC (5.1ch まで)
	入力端子	光デジタル (光)
同軸デジタル (同軸)		1 (同軸デジタル)
アナログ (RCA/ステレオ)		1 (アナログ)
出力端子	アナログ (RCA/モノラル)	1 (サブウーファー出力)
	Bluetooth バージョン	Ver2.1+EDR
Bluetooth	対応プロファイル	A2DP
	対応コーデック	SBC、aptX
	無線出力	Bluetooth Class2
	最大通信距離	10m (障害物が無いこと)
	対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式

総合	電源電圧	AC 100V、50/60Hz
	消費電力	24W
	待機消費電力	Bluetooth スタンバイ有効時 0.3W Bluetooth スタンバイ無効時 0.2W
	寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	780x77x370mm
	質量	8.8kg

*仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。



「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。




「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。



Bluetooth は、Bluetooth SIG の商標登録であり、ヤマハはライセンスに基づき使用しています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号  は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。DTS、そのシンボルマーク および DTS とそのシンボルマークの組み合わせは、DTS 社の登録商標です。DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマークは、ドルビーラボラトリーズの商標です。



© 2013 CSR plc and its group companies.
aptX® およびロゴマークは CSR 社またはそのグループ会社の商標または各国の登録商標です。

「ブルーレイ™」および「ブルーレイディスク™」は、ブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

Bluetooth について

- Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

本機の無線方式について



「2.4」.....2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」.....変調方式は周波数ホッピング (FH-SS 方式)
「1」.....想定干渉距離が 10 m 以内



.....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

対応コーデックについて

- 本機は aptX® コーデックに対応していますが、接続する機器によっては、ワンセグなどの音声再生できない場合があります。その場合は接続機器の aptX 設定をオフにして、接続し直してください。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

音を楽しむエチケット

- 楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
- 適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- 音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

安全上のご注意



ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
 「~しないでください」という「禁止」を示します。
 「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がる。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。
- 異常に高温になる。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

- 電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
 - ステープルで止めない。
 - 加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。
 - 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

付属の電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。
キャビネットは絶対に開けない。
キャビネットにネジ穴などを開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：
● 布やテーブルクロスをかけない。
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲にテレビを除いて左右 5cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



禁止

医療機関の屋内など、医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する。
本機が発する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。
傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上のご注意



禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源 / 電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱、および火災の原因になります。



必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本機の (電源) ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池



必ず実行

電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下して、けがの原因になります。



禁止

縦置きや上下逆に設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。



直射日光の当たる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。

必ず実行



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。

必ず実行



工事はお買上げ店、または専門の工事業者に依頼する。工事は技術と経験が必要です。不十分な取り付けは本機が落下して、けがをする原因になります。お客様による工事は一切行わないでください。

必ず実行



転倒防止ワイヤーやネジなどでテレビを本機に固定しない。テレビを本機に固定した場合、地震などにより、テレビとともに本機がラックから落下する恐れがあります。

禁止

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

使用上のご注意



音が歪んだ状態で長時間使用しない。スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



環境温度が急激に変化する場所では使用しない。本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止



ポート（開口部）には手を入れない。感電やけがの原因となることがあります。

禁止



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。

必ず実行



業務用機器とは接続しない。デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

禁止

リモコン



水やお茶などの液体をこぼさない。電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。

禁止



落としたり、強い衝撃を与えたりしない。故障の原因になります。

禁止



下記のような場所に置かない。
● 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
● 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。
● 極端に寒いところ
● ほこりの多いところ
火災や故障の原因になります。

禁止

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器で相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-011-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付:月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-012-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付:月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口

受付:月～金曜日 9:00～17:45
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

